

平成13年からスタートした町長の4期目が任期満了に近づいてきた。行財政改革の推進と町民の努力・協力により、なんとか健全財政にこぎつけたと思っただけ、台風による大災害に見舞われた。今後、財政的にもどういふことになるかは不透明な状況である。そうした中、町長の16年の検証と今後の町政の取り組みについて伺う。



口田邦男議員

高薄町政4期16年の検証と今後

町政を問う！  
一般質問

12月定例会では9人の議員が理事者に対し、19項目の一般質問を行いました。なお、質問と答弁は要約してあります。

「安心安全な町と子どもたちの未来のために」とのスローガンを掲げ、多くの目標を町民に示し



原 紀夫議員

安心安全と子どもたちの未来のためのまちづくり

高薄町長 就任早々から財政問題や市町村合併問題等があり、赤字再建団体にならないよう皆さまと共に全力を尽くしてきました。任期が迫っているとはいえ、災害復旧などの課題は山積みであり、残された時間の中で全力を挙げて取り組んでいきたい。

「安心安全な町と子どもたちの未来のために」との目標を町民に示し

高薄町長 私公約は10区分65項目あり、できなかったものもあつたが、約9割近くの公約をこの4年間で実行した。今後の課題は、災害復旧を第一優先としながらも、これからの住民サービスをどうしていくかであり、少子高齢化への対応や老朽化している公共施設への対応、医療・福祉の充実などが課題として挙げられる。

高薄町長 本任期中に示した課題と成果、そして、16年間の町政を振り返り、今後の町政の課題を伺う。

高薄町長 担当課が災害対策本部（復興本部）の任に当た

公共施設等総合管理計画策定業務の進行状況

原 紀夫 議員 国から道へ計画的な管理推進についての本通知があり、本町へも趣旨が徹底され、本年度予算で策定業務の委託が決定しているが、どのような進捗状況なのか伺う。また、本町の保育所は老朽化が著しく、0歳児から入所していることもあり、緊急時の避難を含め問題が多いと考える。施設の建設について優先順位をどう考えているか伺う。

650ほ場、16000ヘクタールのうち、5割弱については道で災害復旧



桜井崇裕議員

農地復旧の現状と対策

高薄町長 農地被害戸数1600戸、650ほ場、16000ヘクタールのうち、5割弱については道で災害復旧

高薄町長 11月末現在、災害復旧を申請した農地面積は146ヘクタールで、道が45%、町が55%の割合で復旧を行う。復旧後も土づくりに時間はかかるので、計画中の道営畑総事業の前倒しや団体事業を活用して、土壌改良を支援していく。

高薄町長 11月末現在、災害復旧を申請した農地面積は146ヘクタールで、道が45%、町が55%の割合で復旧を行う。復旧後も土づくりに時間はかかるので、計画中の道営畑総事業の前倒しや団体事業を活用して、土壌改良を支援していく。

高薄町長 11月末現在、災害復旧を申請した農地面積は146ヘクタールで、道が45%、町が55%の割合で復旧を行う。復旧後も土づくりに時間はかかるので、計画中の道営畑総事業の前倒しや団体事業を活用して、土壌改良を支援していく。

行政報告

平成27年国勢調査における調査結果の確定について (12/13)

昨年10月に実施された平成27年国勢調査の人口、世帯数が確定した。本町の人口については、男性4,683人、女性4,916人の計9,599人で、前回の平成22年国勢調査と比較すると、362人、約3.6パーセントの減少となった。世帯数については、4,131世帯で、前回調査に比べ34世帯、約0.8パーセントの増加となった。また、本町の65歳以上の人口は3,330人となり、前回調査に比べ253人、約8.2パーセント増加し、高齢化率は約34.7パーセントとなった。

町道清水基線道路の車両転落事故について (12/13)

12月2日午後4時55分頃、町道清水基線道路において、清水市街地から御影方面に向かって走行していた乗用車が、台風10号の被災により陥没した箇所にて転落する事故が発生した。車両には男性会社員1名が乗車しており、町内の病院において首の手当てを受け帰宅された。事故が発生した箇所は、通行止めの交通規制を行っており、道路中央部と左側のセーフティーゾーンとパーが何らかの理由により移動され、発生した事故であった。この件に関しては、現在新得警察署において事故の捜査中であり、男性会社員との協議についても弁護士に委任し対応していく。

鳥インフルエンザの発生について (12/20)

12月16日午前10時46分に十勝家畜保健衛生所から町内の養鶏場において採卵鶏30羽が死んでいるとの報告を受け、その後12時49分にA型鳥インフルエンザの陽性反応が確認されたとの報告を受けた。同日午後10時30分には、遺伝子検査の結果が判明し、道内初（国内では本年5例目）となる高病原性鳥インフルエンザと確認された。この結果を受けて、十勝総合振興局に対策本部が設置され、翌17日には殺処分作業等が開始された。殺処分の対象となる採卵鶏は、ひな鳥を含めると約28万4千羽となった。国の指針では24時間以内に殺処分をし、72時間以内に焼却又は埋却しなければならないこととなっているが、計画どおりに作業が進まず、20日午前7時に埋却が完了した。

★ 議会活性化特別委員会 中間報告 ★

平成28年第7回定例会で議会活性化特別委員会から中間報告がありました。概要は次のとおりです。

【調査・検討項目】 全員協議会で提起された4項目（議員定数、議員報酬、委員会の所管、委員任期）に限定せず、課題について幅広く調査・検討を行うことになり、本委員会で提起された10項目を加えて進めることとした。

【常任委員会の所管】 現在は総務文教と産業厚生になっているが、近年は総務部局と産業部局が連携して進めている事業が多く、子育てに関することは厚生部局と文教部局の連携が不可欠であるため、総務産業と厚生文教に変更することになった。

【今後について】 調査・検討項目として14項目が挙げられており、進める順序としては、本委員会で提起した10項目は議会運営関係、広報広聴関係、その他の順にグループ分けして調査・検討を行うこととし、全員協議会で提起された4項目も、適宜、調査・検討を始めることになっている。

平成28年度 補正予算

一般会計 (12・13回目の補正) 5億3,328万円増 総額105億628万円

一般会計の主な補正(歳出)

◇社会保障・税番号制度システム整備業務委託料	83万円の増額
◇セキュリティクラウド接続設定変更委託料	158万円の増額
◇社会福祉協議会補助金	212万円の増額
◇臨時福祉給付金費	3,306万円の増額
◇環境保全型農業直接支援対策事業交付金	97万円の増額
◇中小企業近代化資金利子補給等補助金	116万円の増額
◇とかち広域消防事務組合負担金	571万円の増額
◇社会体育奨励事業報償	87万円の増額
◇給食用賄材料費	100万円の増額

【以下、災害費の主な補正予算】

◇災害廃棄物収集委託料	3,038万円の増額
◇被災農業者経営体育成支援事業補助金	4億2,720万円の増額
◇ペケレバツ川第1取水口災害復旧事業負担金	908万円の増額